



地場産業の 景気 天気図



晴れ



晴れ一部曇り



曇り



曇り一部雨



雨

好調

不調

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海面養殖	 ▶ 	マダイの浜値は680円/kg前後。引き合いが弱く、当面は下落が続く見通し。ハマチの浜値は760円/kg前後。在池尾数が多いうえ、天然の水揚げも好調なため弱含みの展開が続く。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
食 品	 ▶ 	削り節の原料であるカツオは、バンコク相場(国際相場)では900ドル/トン前後と記録的安値が続いている。一方、国内相場は175円/kg前後と水揚げが少なく先月より約3割上昇。蒲鉾では、主力の北米産スリ身は依然として高値が続いており、メーカー各社の採算は厳しい。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
タオル	 ▶ 	12月のタオルの生産状況を表す今治地区の綿糸受渡数量は4,595梱で、前年同月比2.8%減となった。生産量は安定しているが、資機材価格や人件費、運賃などが上昇するなか、売値への転嫁が難しく、採算面の悪化を懸念する声がある。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
製 紙	印刷・情報用紙 新聞用紙  ▶ 	11月の国内出荷は、印刷・情報用紙は前年同月比6.4%減と4ヵ月連続で減少。情報用紙は前年同月比6.0%減と、PPC用紙が前月に続き消費税率引き上げ前の特需の反動が響いた。新聞用紙は同8.1%減で25ヵ月連続の減少となった。
	衛生用紙  ▶ 	11月の国内出荷は、前年同月比7.6%減と2ヵ月連続の減少。ティッシュのマイナス幅は縮小したが、トイレ紙でマイナス幅が拡大したことが響いた。
	紙加工など  ▶ 	11月の段ボール原紙の出荷は、前年同月比3.7%減で2ヵ月連続の減少。特需の反動減や青果物関係の落ち込みが影響した。紙おむつは、大人用、ベビー用ともに前年同月を下回る出荷水準で、消費税率引き上げ前の特需の反動減とみられる。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
一般機械 金属製品 鉄鋼	 ▶ 	建機の受注は低位横ばいで推移。クレーンやプラント関連の受注、電力・高炉・製鉄メーカーの老朽化設備更新需要は安定しているが、一部で納期の後ろ倒しがみられる。いずれも米中貿易摩擦の影響が大きい。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
造 船	外 航  ▶ 	日本船舶輸出組合によると、12月の輸出船契約実績は20隻・91万8千総トンとなった。主力のバルカーの引き合いは、全般的に低調で、新造船価と海運市況とのかい離に加え、中国造船所との価格差が大きいため、受注環境は極めて厳しい。
	内 航  ▶ 	1～2年程度の手持工事量を有している。499G/T級貨物船を中心に受注環境は安定しているが、競争が激しく、鋼材価格や人件費などの上昇分を船価に転嫁できず、採算面は厳しい状況。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海 運	外 航  ▶ 	遠洋のバルカーは、鉄鉱石・石炭の荷動きは中国の旧正月前で活発化しているが、BDI(バルチック海運指数)は船腹過剰感から900前後まで低下。 近海船は、国内のバイオマス発電所が本格稼働し始めたことから、東南アジアからのパーム油輸入の伸びが期待される。
	内 航  ▶ 	貨物船は、鉄鋼・雑貨などの荷動きは前年をやや下回って推移。原料のうち、セメントは需要が減少して荷動きは鈍化。タンカーは、暖冬傾向により、燃料用・発電用ともに荷動きは低調に推移している。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
建 設	 ▶ 	12月の県内の公共工事請負金額は、前年同月比12.7%減の113億円であった。請負金額が前年を下回るのは15ヵ月ぶりである。11月の住宅着工戸数は前年を17.7%下回る553戸で、利用関係別では、「貸家」と「分譲住宅」が2桁減となった。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
観 光	 ▶ 	11月の道後温泉旅館宿泊客数は、前年同月比3.1%減の74,051人と、3ヵ月連続で前年を下回った。 11月の主要観光施設入込客数は、東予が前年を上回ったものの、中予と南予が前年を下回り、全体では前年同月比2.1%減と3ヵ月ぶりに前年を下回った。